



小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /  
人と動物の体 / 理解シート

## 血管が脈を打つのは、どうしてなの



しんぞう 心臓がぎゅっとちぢんだとき、血液を強い力で血管におし出すため、血管がふくらむのが、脈になるのさ。

血液は、全身に酸素や栄養分を運ぶ、大切な役目をしています。血液が全身をまわるのは、心臓が生きているかぎり動き続けて、ぎゅっとちぢんでは血液をおし出し、元の大きさにもどるときに、全身をまわってきた血液を心臓に吸いこむことをくり返しているからです。

心臓から出ていく血液が流れる血管を動脈といい、心臓に入ってくる血液が流れる血管を静脈といいます。動脈は、心臓が強い力で押し出す血液が流れるため、厚い筋肉きんにくでのびぢみしやすくなっています。手首や首筋くびすじなどで脈を感じるができるのは、動脈です。

全身をまわってきた静脈は、流れがゆるやかになっているため、動脈とくらべると血管のかべはうすく、脈も感じられません。皮ふのすぐ下で青くすけて見える血管は、ほとんどが静脈で、ここにふれても、脈を感じることはできません。動脈は皮ふの下の深いところにあるため、表面からは見えません。

### 脈は、心臓の動きを知らせてくれる

脈をはかると、心臓がきちんと動いているか、血液が正しく全身に送られているかなどを調べることができます。ふつう、健康な大人の男の人は1分間に70、女は75～80、10才の子どもなら80～90ぐらい脈を打ちます（脈はく数）。

はげしく動き回ったりすると、体の中で必要とする酸素がふえますから、心臓の動きも活発になります。そのため、脈はく数はふえます。熱いふろに入ったり、きんちょうしたり、おどろいたりしたときも、脈はく数がふえます。

心臓がどきどきしたときは、脈も速く打っているんだね。



もっと知りたい人へ：「動脈と静脈って、どうちがうの」も見てみよう。